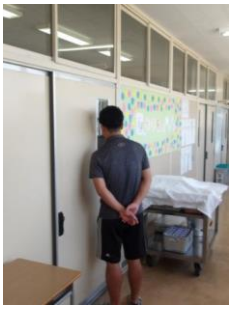
表現

背中で語る。

険しい視線を送るのは一人の教員。合唱の練習が佳境の中、各教室を回り、求められれば、助言をする。背中でも言葉でも語ることができます。



背中で語る人間になりたいと精進してきましたが、すでに実現する人が目の前に居るとは。

本校では、『交流を軸に自分の考えを表現し、伝える力発表する力を育む』ことに重きを置いています。合唱コンクールも表現のひとつにあたります。

放課後の練習で、どこのクラスからも一週間前と異なる響きが聞こえてきます。練習方法も様々です。

一年生のクラスの練習風景をのぞいてみると、実行委員が「それでは振り返りです」の声に続き、パートリーダーが前に立ち、一言ずつ語っていきました。まさに「自分の考えを表現する」なのです。「アルトとソプラノをテノールが支えて!」合唱に“支える”という概念があったのです。みんなで語りあっ て伸る か反るか分かりませんが、今はやるしかないのです!!

給食も音楽祭を表現しています。25日の給食は、“ジュリエンヌスープ”です。ニンジンと大根で音符を表現しています。給食室の調理員さんたちからの皆さんへの応援です。

22 日 1 年生の英語の授業では、スピーチです。一人ずつみんなの前で発表していました。これまた、伝える力を育みます。スピーチ内容をすべて暗記している生徒、身振り手振りを交える生徒、聴衆に対し視線を送りつつ語る生徒、仕上がりは人それぞれです。英語会話上達のための極意は、不安は あると 思いますが、間違えを恐れず語ることだと聞きました。

けやき通りから、正門に向かって歩道を進むと、フェンス沿いに“ネコジャラシ”の花穂が並びます。緑色が薄くなり、草花は確実に秋を表現し始めています。風で揺れる穂に猫が興味を示し、狩猟本能を刺激されてじゃれついて遊ぶことから、ネコジャラシと呼ばれるようになったようです。子供のころ、それを確かめるために、ネコジャラシで野良猫をくすぐったことがあります。快さそうにじゃれついてきたことを覚えています。楽しそうでした。正式名称は、“エノコログサ”漢字で書くと“狗尾草”これは、ネコジャラシの花穂が犬の尾っぽに似ているから。“狗”は“犬”を意味します。同じ植物なのに名前に犬と猫の文字があてられるなんて、観る人よって表現は異なるのですね。

「課題曲を制する者が合唱コンを制する」ということわざがあるといいます。26 日音楽祭、同じ曲ですが、歌い手によって異なる表現に、心くすぐられて参ります。